

東京電力ホールディングス(株)福島第一原子力発電所
2020年度 パフォーマンス向上会議情報(2020年7月2日(木)分)

◆不適合とは、本来あるべき状態とは異なる状態、もしくは本来行うべき行為(判断)とは異なる行為(判断)を言います。法律等で報告が義務づけられているトラブルから、発電所の通常の点検で見つかる計器や照明の故障など、広い範囲の不具合が対象になります。

2020年7月2日のパフォーマンス向上会議で審議された不適合は、下記のとおりです。

番号	不適合内容	グレード	発見日
1	【既設多核種除去設備(C)吸着塔入口配管接続部からの水の滴下について】 当直員の現場パトロールにおいて、停止中の既設多核種除去設備(C)吸着塔9C入口配管接続部からの水の滴下を確認。 漏えいした水は、建屋の堰内に留まっており建屋外への流出はない。 発見時水の滴下量は1滴/30秒であったが、その後、水の滴下が自然に停止したことを確認。 漏えいした水の拭き取り、漏えい箇所の袋養生及び吸着塔の隔離処置を実施。	G III	6月25日
2	【6号機非常用ディーゼル発電機(B)補機冷却系サージタンク水位検出器のドレン弁シートパスについて】 当直員にて6号機非常用ディーゼル発電機(B)補機冷却系サージタンク水位検出器のドレン弁が閉状態において、下流側の排水口側面に水がにじみでていることを確認。 ドレン弁のシート面のキズ等によりシートパスが発生したものと推定。 ドレン弁からのにじみ量は極わずかであり、水位検出の機能には影響がないことから、継続監視する。	G III	6月26日
3	【既設多核種除去設備 高性能容器遮蔽体 駆動用エアホース亀裂について】 当直員にて既設多核種除去設備 高性能容器遮蔽体 駆動用エアホースに亀裂を確認。 応急処置として、上流側の空気供給止め弁を「閉」にし、亀裂したエアホースからの空気漏えいを停止。 運転には使用していないため、既設多核種除去設備の運転への影響はなし。 高性能容器の交換時にエアホースを使用しても空気漏えいは微量のため支障なしと判断。	G III	6月28日
4	【「多核種移送設備建屋 電気品室空調機B故障」警報発生について】 「多核種移送設備建屋 電気品室空調機B故障」警報が発生し、当直員にて現場確認したところ、空調機が停止し、状態表示灯が消灯していることを確認。 空調機の状態を確認したところ異常なく停止。状態表示灯の「運転/停止」ボタンで再起動を試みたが、表示消灯のまま起動せず。 今後、詳細調査を実施し、それに基づき対策を検討予定。 空調機は他の3台が使用可能なため運用に支障なし。	G III	6月29日